

TOKYO SEITOKU

July.2024

NOW

vol.
56

東京成徳学園の“今”を発信する広報誌

— 追悼 — 木内秀俊学園長の遺徳を偲ぶ

特集

これからの幼児教育と保育者の在り方



TOKYO SEITOKU

つながる学び、ひろがる未来。

学校法人 東京成徳学園



TOKYO SEITOKU
Since 1926



AI時代と並走しつつ、 教育の質を高める努力を



東京成徳大学 学長
吉田 富二雄

先日、友人との会食の折、初めてワード・プロセッサーを使用した時の話で大いに盛り上がりました。論文を書いたり修正したりすることが一挙に楽になったからです。あの時は感激したね、ということで何度か盃を重ねました。1980年あたりのことだったと思います。同音異義語の多い日本語ではワープロは難しいとか、液晶のA4サイズ画面は電源の関係で難しいなどという話もありましたが、ようやく個人用ワープロが出始めた頃で、私もN社製のワープロを購入した時の喜びは今でも鮮やかに覚えています。しかし技術の急速な進歩は同音異義語や液晶サイズのハードルを軽々と飛び越え、さらにワード・プロセッサー自体も過去の遺物にしていきました。時代の移り変わりのスピードを感じました。

思い返すと、1980年は「情報革命」の始まりでした。携帯電話から、メール、情報検索、動画やゲームまで。目まぐるしいまでに情報環境は進化し、SNSを通して私たちの認識する世界は一挙に拡大しました。通勤電車の車内に見られるように日常生活の光景はすっかり変わってしまい

ました。コンビニエンスストアが日本社会に浸透したのも1980年代のことです。

そして次に「AI(人工知能)革命」

コロナパンデミックが発生した2020年から、私たちは「情報化社会」の次の段階「AI社会」に足を踏み入れたといわれています。2022年11月、人と自然な会話を行う対話型の人工知能エージェントであるチャットGPT(ChatGPT)が公開されました。公開からわずか5日で100万人、2か月で1億人とユーザー数は爆発的に拡大し、後に続いて多くの文章・音声・画像の生成系AIが一挙に出現しました。革命的ともいわれるAIの進化は現在も秒単位の勢いで進行中です。(AI関係者の表現では、未来が一挙にやってきた、とのこと)どうやら「AI社会」は急速に現実味を帯びつつあるようです。現在、私たちの仕事はAIやロボットによって徐々に替わられつつあります。今後AIはさらに多くの仕事を代わって行うようになるでしょう。しかし、いつか遠くない未来に、人間の行う仕事の大部分をAIが行うとしても、人を育てる「教育」という極めて人間的な営みは残ると思います。そこでは人間をAIで置き換えることはできないからです。

私は、高校時代に習った子規の歌「瓶にさす藤の花ぶさみじかければたたみの上にとどかざりけり」についてAIに尋ねてみたことがあります。「藤の花房が短いので畳に届かない」という単なる説明的内容にもかかわらず、私たちが美を感じ優れた歌と思うのは、なぜかと。



2023年度卒業式の様子 [右上]応用心理学部健康・スポーツ心理学科集合写真
[左]大学開学30周年モニュメントとともに[右下]東京成徳短期大学

(AIの回答)『この短歌は単なる表象を超え、「侘び寂び」を通じて日本の美学を深く表現しています。花が畳に届かないことは、自然の儚さや限界を象徴し、視覚的な余白が想像力を刺激します。これにより、読者の内面との対話が促され、深い共感や感情の動きを引き出します。…』

子規の歌に関する研究書や参考書の解説を巧みにつなぎ合わせて、それらしき回答を作っているように見えます。ただ何か表面的な印象は拭えません。やはり、関連する言葉を確率的につなぎ合わせて作り出したという感じをうけます。AIには「私」という意識はなく、したがって美に共感する感性や情緒もないからです。AIは、膨大な情報(数百万冊の書籍・新聞や雑誌の記事・インターネット上のテキストなど)に基づく事前学習を源とし、私たちのさまざまな問いに答えてくれます。その意味で極めて優れたツールです。今後もますます進化して社会にそして教育に浸透していくと思われます。今、私たちに必要なことは、AI時代と並走しつつ、AIを上手に活用して教育の質を高める努力を怠らないことではないでしょうか。

最後になりましたが、故木内秀俊学園長先生に感謝の言葉を申し上げたいと思います。

先生は、時折学長室にお見えになり、いろいろなお話をしてくださいました。その時の言葉とともに、秀俊先生の温かみのある笑顔が今でも印象に残っております。本学園に対する長年にわたる先生のご功績に深く感謝するとともに、先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

01 巻頭言

03 — 追悼 —

木内秀俊学園長の遺徳を偲ぶ

05 特集

05 これからの幼児教育と保育者の在り方

09 スペシャリストが語り合う
“幼児教育と保育の未来”

10 TOPICS

10 東京成徳大学・短期大学／
大学院 就任のごあいさつ

11 国際学部／子ども学部／経営学部

12 応用心理学部／大学院

13 短期大学／中学・高等学校

14 深谷中学・高等学校／幼稚園

15 NEWS 学園創立100周年記念事業

16 先生に聞く。

17 ひと『活躍する卒業生』

品川区役所 子ども未来部 保育施設運営課
保育・教育担当(研修)担当付主査 課長補佐
佐々木 万希代さん

19 進路(進学・就職)

21 クラブ活動報告／クラブ活動紹介

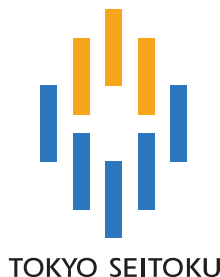
23 学園の動き／ブランド・ステートメント

27 お問い合わせ先

学園後援会のご案内

読者アンケートのお願い

学園のシンボル・マーク



TOKYO SEITOKU

イエローは「活力」と「勇気」を表し、3本の柱は学生・生徒・園児、教職員、同窓生を象徴しています。ブルーは「理想」と「若さ」を表し、5本の柱は5つの教育目標を象徴しています。そして、8本の柱が一体となり、東京成徳学園とその学園に集う人々のヒューマニティーを作り上げる姿を表現しています。

追悼

木内秀俊学園長の 遺徳を偲ぶ

2024年1月、東京成徳学園 学園長・前理事長の木内秀俊先生が永眠いたしました(享年80)。

木内学園長は1984年から約40年間にわたり東京成徳学園の発展に尽力され、入職後より財務の健全化に取り組むとともに、東京成徳大学の設置や東京キャンパス(十条)の校地拡張を実現し、現在の高等教育部門の礎を築かれました。

学生時代を東京教育大学(現 筑波大学)附属小・中・高で学ばれた学園長は、附属生らしい教養・見識と、リベラルで良き市民としての精神を持った、素晴らしい教育者であり経営者であられました。学園長の在りし日を偲び、これまでの軌跡をご紹介します。



全文はこちら



学園長のおことば

生前に記した遺稿文より

“人生万華鏡”

人生で最終的に大事なこと——

人間はそれぞれが特色や特徴を持っています。その特色や特徴を自分が十分認識するためには客観的な評価が大切です。外部から評価されて初めて客観的な自分の位置づけを知ることができます。多様な価値観や習慣に触れるために広く国際世界での活動が有意義です。現代は個々人が自分の特徴や能力を知ってそれを人生の中で最大限に伸ばしていくことが求められています。しかし人間に最も大事なことは個人が社会集団の一員であり皆等しくその中ではかけがえのない存在であることの自覚であると

思います。自分の興味に沿って能力を発揮することは大事ですが、それにも増して大事なことは世の中のため他人のために行動し生きていくことです。そうすることが最終的に自分に人生への充足感や満足感をもたらすと信じます。自分の人生を振り返った時喜怒哀楽の感情を伴うさまざまな出来事が万華鏡を見ごとく浮かんできます。現在をよりよく生きて人生の終わりに過去の思い出を懐かしく思い起こす時を持ちたいと思います。

TOKYO SEITOKU NOW(東京成徳広報 第55号)巻頭言より一部抜粋

追悼のおことば

Message

学園長は本年1月2日未明に、急に体調を崩し、救急搬送されましたが、治療の甲斐なく亡くなりました。亡くなる2週間前に、学園本部に出勤され、翌年の人事や創立100周年事業について、話したばかりでしたので、その知らせを聞いた時は、突然のことで信じられませんでした。今でも穏やかな笑顔で現れるのではないかと考えてしまいます。学園に奉職してからの学園長は、木内四郎兵衛第3代理事長の片腕として、学園財務の健全化に努めるとともに、東京成徳大学の開学や学園改革に力を尽くし、貢献されました。特に、現在高等教育機関が東京都北区十条台にまとまることができたのも、校地拡大を実現した学園長の先見の明のおかげであるといえましょう。長い間の闘病生活は苦しかったと思いますが、やっと解放されてほっとしているかもしれません。安らかに眠りいただきたいと思います。



東京成徳学園
理事長

木内 秀樹

History



1966(昭和41)年
東京大学端艇部東商戦(21歳)
後列左から4人目



1984(昭和59)年
東京成徳短期大学入職当時(39歳)



1993(平成5)年
東京成徳短期大学学長就任(48歳)

- | | | | |
|------|--|------|---|
| 1968 | ● 東京大学工学部卒業 | 1998 | ● 学校法人東京成徳学園 理事(常務理事) |
| 1971 | ● 東京大学大学院工学系研究科修士課程 修了 | 1999 | ● 東京都私立短期大学協会理事(2012年3月まで) |
| 1972 | ● 東京大学大学院工学系研究科博士課程 中途退学 | 2000 | ● 私学研修福祉会私立大学の教育・研究充実に関する研究会運営委員(2009年3月まで) |
| 1972 | ● 株式会社日本長期信用銀行入行(1984年4月まで) | 2001 | ● 学校法人東京成徳学園 副理事長 |
| 1984 | ● 学校法人東京成徳学園入職
東京成徳短期大学 副学監・助教授 | 2004 | ● 全国大学実務教育協会理事(2013年5月まで) |
| 1986 | ● 東京成徳短期大学 学監・教授
学校法人東京成徳学園 評議員(2019年5月まで) | 2005 | ● 東京成徳大学 学長就任(2013年3月まで)
学校法人東京成徳学園 理事長(2013年5月まで) |
| 1988 | ● 学校法人東京成徳学園 法人本部長(2013年5月まで)
日本私立短期大学協会運営問題委員会等委員(2013年3月まで) | 2008 | ● 日本高等教育評価機構短期大学認証評価検討委員会委員(2009年1月まで) |
| 1993 | ● 東京成徳短期大学 学長就任(2013年3月まで) | 2013 | ● 学校法人東京成徳学園 学園長・学事顧問 |
| 1994 | ● 短期大学基準協会自己点検・相互評価委員会等委員(2009年2月まで) | 2024 | ● 2024年1月2日 永眠(享年80) |



2004(平成16)年
東京成徳学園創立80周年記念式典(59歳)



2014(平成26)年
大学・短大新校舎(3・4・9号館)竣工式テープカット(69歳)



2019(平成31)年
東京成徳学園理事・評議員退任(74歳)

木内先生は1984(昭和59)年のご入職でしたが私は前年に短大に奉職し、その縁もありいろいろご指導いただいてまいりました。入職後、大学設置の指示が下され、木内先生も私も当時の短大の英文・国文・幼児教育の3分野の知見を生かした人文学部3学科の大学設置に着手することになります。英文国文分野は問題ない一方、福祉心理という研究領域もない時代に福祉心理学科を作ることになりました。

福祉心理を人文に適合させる必要があり、多くの人が知恵を働かせ悩む中、ふと木内先生が「共生」の言葉を持ち出したことは忘れもしません。「共生」「共に生きる」今では“ダイバーシティ”などと表現されるように多様性が認められる社会になりましたが、この当時には珍しい言葉でした。そこから明るい日差しが差し込み、私も一気に認可申請書を書き上げ、3学科も無事認可、木内先生と大変な日々の中、大学設置をした思い出があります。

私も将来あちらの世界に行って、また木内先生とお話しする機会があれば、あの時はこうだったねと昔話ができることを楽しみにしております。先生、本当にありがとうございました。



東京成徳大学
子ども学部長
塙 和明

“ 特集 これからの幼児教育と保育者の在り方 ”



園長として活躍する
卒業生

保育職を目指す
大学生

保育分野への
進学を目指す
高校生

公立の保育士(公務員)
を目指す
大学生

羽入 大和さん

東京成徳短期大学 幼児教育科 卒業生
グローバルキッズ愛住町園 園長

小泉 璃子さん

東京成徳大学
子ども学部 子ども学科 4年

青木 花乃さん

東京成徳大学深谷高等学校
普通科 進学コース 保育系 3年

渡部 柚月さん

東京成徳大学
子ども学部 子ども学科 4年

働き方の広がりから保育を必要とする子どもは増えており、教育への価値観も多様になる中、豊かな人間性と知識を備えた保育者へのニーズは高まっています。現場で活躍する保育士や幼稚園教諭、そして今まさに幼児教育や保育を学ぶ学生は、どのように考えているのでしょうか。園長として活躍する卒業生と、保育職を目指す学生たちに、幼児教育や保育に対する思いなどを伺いました。学生から卒業生に質問をして意見交換するなど、有意義な座談会となりました。

—— 皆さんが東京成徳学園で学ぼうと思った理由を教えてください。

羽入 絵を描いたり制作が好きだったことや、保育園でのボランティアを通して「保育士は自分の好きな分野を生かせるような仕事だ」と実感したことが主な理由です。東京成徳短期大学は、きれいな校舎と明るい雰囲気の中で学べることや、保育士資格と幼稚園教諭二種免許状の2つの国家資格を取

得できるカリキュラムなどが決め手となり入学したことを覚えています。卒業して17年経ちますが、当時の恩師や友人とは今でも連絡を取り合っているほど。思い出がたくさんありますね。
渡部 母が公立保育園の保育士で、私自身も小さい頃から子どもが大好きで。母と同じように生き生きと働きたいと思い、子どもに関する領域を幅広く学ぶことのできる環境に加え、公務員

対策講座が充実している東京成徳大学に進学しました。希望すれば小学校教諭一種免許状も取得できるので、将来の可能性が広がると考えました。
小泉 保育士、幼稚園教諭という職業に加え、子ども向けの玩具や絵本などに関わる職業にも関心を持っていました。東京成徳大学は「子ども学科」として子ども文化全般にアプローチが可能で、さらには造形などの表現教育も充実しているので、4年間の中で幅広く学び、じっくりと将来を考えることのできる点にも魅力を感じました。

青木 東京成徳大学深谷高等学校は、進学コース内で「文系」「理系」に加えて「保育系※」の選択ができ、保育士になりたいという夢の実現に向けて高

※2025(令和7)年度生徒募集より、「子ども教育系」に名称を変更して募集予定。

校から動き出せるという点が良いなと思いました。実習授業も豊富ですし、保育の現場で求められるスキルを図る「保育技術検定」にも取り組み、取得して自信をつけている最中です。

—— 渡部さんと小泉さんは大学4年生、青木さんは高校3年生。進学や就職を控えている時期かと思いますが、どのような進路を検討していますか。

青木 高校での学びをさらに深めるため、大学に進学してしっかり学び、保育士、幼稚園教諭の資格を取得したいと考えています。高校でも保育実習はありましたが短期間だったので、大学での長期の実習が今から楽しみです。

渡部 大学では4年間で5～6回の保育所、幼稚園、児童福祉施設等の実習がありました。それ以外にもアルバイトやボランティアを通じて、子どもと直接に触れる機会を多く持つようにしてきました。4年生の春に行った実習が最後でやっと全ての実習が終わり、これから勉強モードに切り替えて公務員試験に注力します。大学では希望する学生を対象に公務員試験対策講座が開催されているので、試験頻出項目を重点的に演習しながら取り組んでいます。

小泉 私は玩具や絵本など子ども向けのビジネスに関心があったので、保育関連の民間企業への就職活動を視野に入れていた時期もありました。ただ、授業や実習を通して「自分のやりたいことは、やはり子どもと直接的に関わることだ」と実感。保育園への就職を



全国から学生チームが集結して一般教養や専門知識の深まりを競う「社会人基礎力グランプリ」ではオペレッタをテーマにして、全国2位である優秀賞を獲得。



保育園実習やボランティアなど子どもと関わる行事は積極的に参加。「園児には“おねえちゃん先生”と呼ばれていました。」

実現させるべく、改めて就職活動をスタートしています。

—— 学生、生徒の皆さんから、現役の保育士、そして園長としてご活躍されている羽入さんに聞いてみたいことはありますか？

小泉 保育士は、やはりピアノのスキルが必須でしょうか？大学で学んではいるものの、私自身小さい頃からピアノや音楽の習い事をしていたわけではないので、実は少し苦手意識があります。

青木 私も、ものづくりが得意ではなくて。保育士さんは皆さん器用で上手なイメージがあるので、少し心配です。

羽入 ピアノも制作も、得意であることに越したことはないですが、私が勤務するグローバルキッズでは重要視していません。「自分の得意なことを伸ばして、生き生きと保育にあたってほしい」という考えです。ピアノが得意な先生が音楽を主に担当して、スポーツが得意なら運動やリトミックを、手先が器用ならお絵描きや制作を…といった具合に、保育士同士が連携して、それ

ぞれの個性を生かした保育をしよう、という方針の園も多いと思いますよ。

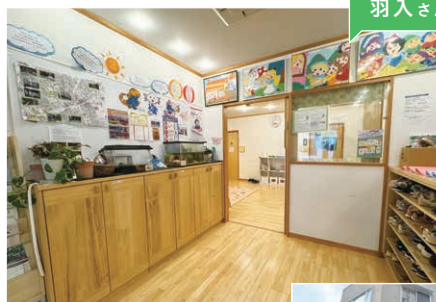
青木 安心しました。実習で感じたことなのですが、複数人の園児と遊ぶところ、1人の子が追いかけてこを希望して、結果その子だけと遊ぶ形になってしまいました。どうしたら集団遊びにつなげられたのかな？など、集団を見ることと子ども一人ひとりに目を向けることの両立の難しさを感じました。

渡部 私の場合、他の子にも声かけをして少しずつ集団で遊ぶ連合遊びの段階へと誘導する、ということを実践したことを覚えています。手遊びや絵本も、園やクラスによって好きなものが異なるので、「みんなは何が好き？」とコミュニケーションを取りながら保育に取り入れていきました。あと、子どもへの声かけや援助の仕方、関わり方に迷った際は、自分が子どもの立場に立って「してくれたらうれしいこと」を考えるということが、子どもと関わるうえで大事と先生や保育士さんから教えていただき、とても参考になりました。

小泉 自分から動く以外にも、待つ、見守る、といったことも大切で、場面に応じた判断が求められますよね。私自身も試行錯誤しました。ただ、子どもたちの素直な反応や、こちらが考えた活動を楽しんでくれている様子を間近で見ることができるのは純粋にうれしくて、子どもってかわいいな、この仕事ならではのやりがいだな、と思っています。

羽入 正解は1つではなく、何がその子





羽入さん's photo

羽入さんが園長を務めるグローバルキッズ愛住町園。「0歳から6歳まで、園児は約80人。都心にありながらも、園舎は木のぬくもりにあふれ、近くに自然豊かな公園も豊富です。」



にとってのベストなのかを考えることで、保育業界全体の質がさらに向上すると思います。学生の皆さんはまさに「子どもたちのために」と、しっかりと向き合いながら取り組んでくれているんだなとうれしくなりました。

青木 保育実習の際に、学生が主体となって1つの場面を担当する実習があるのですが、その際にやってほしい遊びがあればぜひ教えてください。

羽入 園では季節ごとにさまざまな行事や制作を行うことが多いです。園児に四季の移り変わりを感じてもらったり、その季節の楽しさを実感してもらったりするといったねらいがあるので、実習生の皆さんも何かそういったねらいを持った遊びをしてくれるとうれしいですね。学生の皆さんの工夫や

アイデアが見られると、子どもたちにとっても思い出になると思います。

渡部 子どもに加えて、地域社会や保護者のニーズに応えることも重要であるものの、休日保育や延長保育、医療的ケア児受け入れなど保育が多様化している反面、今後保育者の働き方がより多方面に広がり、難易度が高くなってしまわないかと感じています。

羽入 認可保育園では医療的ケア児・障がい児を含む子どもたちと同じ環境で保育するインクルーシブ保育が広まりつつありますが、保育士を追加で配置する動きも見られているものの、まだまだ十分ではありません。多様な子どもに対して保育を行ううえで、私自身は“言葉での説明”に加えて“視覚的な説明”も加えるようにしています。例えば今日の散歩で行く公園の写真を見せる、制作やおやつなど次の活動が分かるように絵カードを活用するといったことです。いずれにせよ、これからの保育士は多様な子どもへの理解、保護者対応、栄養士や看護師などの他職種と関わっていくなど幅広いスキルが求められていくと思います。そういった知識や技術を持つ保育士はさらに尊重されてほしいです。

——羽入さんは園長として保育園の運営を担うお立場ですが、具体的にどういったお仕事をされているのでしょうか。

羽入 園長は、園全体を把握しながら保育の方針や自分自身が持つ「こうしたい」という保育観を共有して、職員全員で目標に向かっていけるよう、園をマネジメントする役割があります。時にはグループ園と情報共有などで連携したり、フリー保育士のように各クラスに入ることもありますし、保護者に提供するために子どもの写真を撮ったり、SNSを担当したり…と、さまざまな仕事を経験できる楽しさもあります。園の方針次第ですが、グローバルキッズであれば主担任やリーダー、主任保育士になり、自分のように園長になるというキャリアを選ぶことも可能です。保育士として長く続けていくことにつながるので、ぜひ目指してほしいと思います。

——保育職でもキャリアアップができるというのは大事なことですよね。

羽入 そう思います。保育士や管理職は多忙そうだったイメージがあるかもしれませんが、今は現場の働き方も良い方向に変化しています。園長としても職員の働きやすさを第一に考えて、楽しんで仕事に向き合ってもらいたいと思っていますし、業界全体としても待遇の見直しに動いていたり、社会的な必要性も見直されていると感じます。余談ですが、最初に担任を受け持った子どもたちは今年成人を迎えています。今でも交流が続いているのですが、保育園での経験を覚えていて

小泉さん's photo



実習最終日に子どもたちがプレゼントしてくれた、手作りの王冠やメダル。



授業の中で作成した絵本。「小さい頃から絵本が大好きだったので、意欲を持って取り組むことができました。架空の出版社名を決めたり、作者として自分のプロフィールを考えたり、本格的で楽しかったです。」

くれて、その人の人生の中の1つの糧と
なっていることがうれしいと感じます。

青木 お話を通して、改めて子どもたち
にとって良き理解者である保育士にな
りたいと思うことができました。保育の
プロフェッショナルとして誰からも信
頼される人になれるよう、勉強を重ね
ていきたいです。

渡部 子どもの成長はあっという間で、
この間でできなかったことが急にでき
るようになるなど、驚かされることが何
度もありました。私自身も子どものそう
した姿に励まされることも多く、かけ
がえのない仕事だと思います。子ども
と同じ目線になって遊んだり、喜んだ
り、楽しんだり。悔しがったり、悲しん
だりできる保育士になりたいと思って
います。

小泉 幼児教育や保育に関して、正解
は1つではないということは頭では分

渡部さん's photo

実習中に行った「風
車の玩具」の制作は
大好評だったそう。
「ほかにも、クイズ形
式にすると、より子
どもたちが興味を持
って喜んでくれるとい
う発見がありました。」



子どもからもらった手紙や
絵。「気持ちがうれしいので、
全て大切に取ってあります。」

かっていましたが、今日改めていろ
ろなお話を聞かせていただいて視野
が広がりました。大学での学びを生か
しながら、自分なりの保育観を確立さ
せていきたいです。

羽入 保育の業界は、女性はもちろん
男性保育士へのニーズもありますし、
資格は手に職なのでライフステージに
合わせて長く働き続けることができる
強みもあります。共働きの家庭が増
え、社会的必要性にも注目が集まって
いますので、今後さらによりよい業界

になってほしいですし、そうやっていく
のではないかと期待もしています。皆
さんには、今現在の「子どもが好き」と
いう気持ちを何より大切に、高校や大
学で過ごす毎日を楽しんでほしいで
す。先生方や友人をはじめ、人と人との
関わりの中にはさまざまな学びがあ
ります。そうした日々の中で人への感
謝や共感する気持ちが育まれ、心豊か
な保育者となっていくと思います。皆
さんが先生として活躍するのを今から楽
しみにしています。

pick up !

大学子ども学部

短大幼児教育科

“実習懇談会”を4年ぶりに開催しました

2月20日、実習生として学生を受け入れる幼稚園・保育所・福祉施設との実習懇談会を開催しました。幼稚園教諭・保育士の免許・資格は、学内での学びをもとに、実際の教育・保育の場での実習が欠かせません。教育実習や保育実習は、大学を離れた教育・保育の場で生きた学びをする貴重な機会です。これらの実習は、本学の教育方針をご理解いただき、未来の教育・保育者を育てようとの思いで受け入れる各実習施設があって初めて成立します。新型コロナの影響で4年ぶりの開催でしたが、皆さまと顔を合わせて意見交換等ができました。学生一人ひとりに厳しくも温かいご指導をいただくからこそご意見もありました。感謝するとともに今後の実習指導に生かしてまいります。



短大と子ども学部がそれぞれ“周年”を迎えます

東京成徳短期大学

2025年に開学60周年

大学子ども学部

2024年で開設20周年



1965年に開学した東京成徳短期大学は2025年に60周年を迎えます。これまで卒業生28,123名を送り出し、207名(5月1日現在)が在籍しています。開学時に文科(後の言語文化コミュニケーション科^{※1})を設置し、翌年幼児教育科を開設、女子短大としてスタート。2001年に3つ目のビジネス心理科^{※2}を開設し、その後2004年より共学化しています。

1993年の東京成徳大学開学から11年後の2004年に子ども学部は開設しました。当時より東京都北区で学び、今年2024年は開設20周年です。この20年の間に2,125名が卒業しました。現在は550名(5月1日現在)が在籍しています。

多くの卒業生や地域の皆さまに支えられ、ここまでまいりました。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願いします。 ※1:2014年廃止 ※2:経営学部に変更転換し、2010年廃止

本学教員で
元小学校校長

スペシャリストが語り合う

卒業生で
元公立保育園長

“幼児教育と保育の未来”

齋藤 等 先生

東京成徳大学
子ども学部 子ども学科 特任教授

東京都公立小学校教員、教育委員会、小学校校長を経て現職。「小学校における生活科・総合的な学習の時間を指導する教員の育成」を主なテーマとして研究。共書に『実践・小学校生活科指導法』など。



SAITO
HITOSHI



SASAKI
MAKIYO

卒業生 佐々木 万希代 さん

品川区役所 子ども未来部 保育施設運営課
保育・教育担当(研修) 担当付主査 課長補佐

1985年東京成徳短期大学幼児教育科卒。
区立の保育園で園長を歴任後、品川区役所子ども未来部へ。区立保育園における保育ガイドライン作成や人材育成などを担い、幼保小連携に貢献。

子どもを取り巻く環境は日々変化しており、幼稚園・保育園・小学校においても時代やニーズ、多様性に合わせる事が以前にも増して求められています。そこで本稿では、保育や幼児教育の在り方を追求するねらいから、幼児教育から小学校教育へのシームレスな接続を図る「幼保小連携」において、先駆的な試みを展開する品川区で長年公立保育園長を務め、現在は同区の子どもの未来部に所属する佐々木万希代さんと、東京都の公立小学校で校長を歴任し、教育委員会での指導職のご経験も豊富な齋藤等特任教授の対談を実施。幼児教育と保育の課題と未来について、互いの専門性を生かした視点から語り合いました。

— 教育現場での豊富な経験を持つお二人ですが、子どもと関わる魅力、そして現代の教育の課題をどのように捉えていますか。

佐々木 人が生まれ、育つ日々深く携わる。それが幼児教育や保育の一番の魅力です。早いと生後57日からのお子さんをお預かりすることを考えても、幼少期は家庭とも密接に連携するため、多方面との信頼関係を築くことも大切です。

齋藤 教員も同様で、学習指導や生活指導を通して小学生が著しく成長し、時に困難を乗り越える様子を共にできる素晴らしさがあります。ただし、昨今では教科指導以外にも、ICT教育、キャリア教育、食育など時代や社会のニーズに応じた新たな教育課題もあります。それらいわゆる“〇〇教育”は100を超えともいわれており、内容を精査し、学校だけでなく、社会全体でカバーしていく必要性も感じます。

佐々木 教育なくして社会で活躍する人材が育つことはほぼ不可能で、そこに関わる職業の社会的貢献度は計り知れません。現場の保育士や教員にだけ負担を強いるのではなく、自治体や教育委員会のサポートも必要ですね。

齋藤 現場への支援体制は充実してきており、今後さらなる改革も期待されています。教員は、専門性を高め、指導力の向上のために常に学び続けることも必要な資質であり、これは保育の現場も同様であろうと思います。各機関が積極的に研修などの機会を設け、教育者の質を高めながら、子ども主体の保育・教育となるよう働きかけていく 必要もあるでしょう。

— 「子ども主体」というお話が出ましたが、具体的にはどのような保育、教育であるべきなのでしょう。

佐々木 まずは環境ですね。子どもの成長・発達は連続しているのにもかかわらず、就学前と小学校の教育には制度で区切られた段差があり、以前から問題視されていました。品川区では約20年前から教育改革を推進し、幼保小連携のガイドラインやカリキュラムを策定してきました。幼保でどういった教育をしているか、逆に小学校でどんな授業が展開されているかを互いに共有することで円滑な連携を実施するねらいがあり、実際に小学校と区立園の交流や情報共有等、活発な地域交流が見られています。

齋藤 東京成徳の卒業生である佐々木さんが、先進的な取り組みをリードしていることを誇りに思います。私も校長時代に地域の幼保に対して「園児の散歩時など、気軽に小学校に寄ってください」と発信し

ていました。これだけでも地域で子どもを育てる意識が高まります。誤解してほしくないのが、「子ども主体=子どもに迎合するではない」こと。彼らが実体験をしながら自ら課題を乗り越え、考える力を育てていくことが「主体的な教育」の本質であり、昔ながらの記憶・再生型の教育のイメージを変えていく必要があります。

佐々木 おっしゃる通りですね。保育の現場でも遊びの中で子どもが疑問や発見を見いだせるよう、保育士が時には見守り、ねらいを持った仕掛けをしながら子どもたちの力を育てています。答えにたどり着く道筋や友人との関わりの中で視野を広げていくことも非常に大切だと思います。

齋藤 料理に例えると、レシピ通りに作った料理はおいしいけれど、食べ歩きをしたリアイデアを加えることで、さらに洗練された味になる。それと同じで、教科書を参考にしながらも実際の子どもの姿に合わせて試行錯誤し、接し方や対応を変えていい。これで正解、これが理想の教師像だ、という答えがないこともまた教育の魅力です。

佐々木 さまざまな職業がある中で、保育・幼児教育業界を目指そうとする皆さんの志がとてもうれしいです。あとは受け入れる側である私たちがしっかりサポートしていきたいと思います。

齋藤 教育者には、専門性や自己研鑽が必要ですから、誰でも簡単にできる仕事ではありません。しかし、その人の強みや持ち味を生かして子どもに関わっていくことができます。子どもが好きだという気持ちを大切に育むことができるよう、大学でも指導していきたいですね。

今号17ページに佐々木さんの卒業生インタビューを掲載しています。こちらもぜひご覧ください。



東京成徳大学・東京成徳短期大学

2025年度から100分授業体制がスタート

「全学教務委員会」を通じて、各教育組織で導入に伴うさまざまなメリット・デメリットを検討してきました。他大学での事例も参考にしながら、大学長・短期大学長のリーダーシップのもと教育改革を進めるために導入を決定しました。

授業期間が短縮され、祝日授業も減ることでゆとりを持った学年暦となります。留学やインターンシップ、ボランティアなどの正課外活動の時間を現在より確保することが可能となり、より充実した学生生活が期待されます。授業の面では、時間が10分長くなることを有効に活用し、講義、ディスカッション、振り返り、グループワークなどの多様な学修方法を取り入れ、学修の質を高めることができるようになりますと期待されます。

全学教務委員長・国際学科長 岡本 和彦

100分授業による1日の時間割(案)

	(2025年度～)100分授業	(現在)90分授業
1時限目	9:00～10:40	9:00～10:30
	休憩 10分	休憩 10分
2時限目	10:50～12:30	10:40～12:10
	昼休み 50分	昼休み 50分
3時限目	13:20～15:00	13:00～14:30
	休憩 10分	休憩 10分
4時限目	15:10～16:50	14:40～16:10
	休憩 10分	休憩 10分
5時限目	17:00～18:40	16:20～17:50

100分授業となることで、祝日を使用した授業日数が減り、さらには前期・後期の各授業や定期試験等が、5日から1週間程度早く終了することを見込んでいます。

※上記は検討段階のものであり、確定ではありません。正しい情報は、今後の大学・短期大学からのご案内で改めてご確認ください。

東京成徳大学大学院

就任のごあいさつ

心理学研究科長

茂呂 雄二



就任にあたって

2024年4月より本学心理学研究科長を拝命しました茂呂雄二です。

心理学研究科は、実践的知識と研究能力を身に付けた心理支援の専門家を育てることを目指しています。これまでの修了生や先輩諸先生方のおかげにより、去年は国家資格「公認心理師」試験合格率(100%)においても、臨床心理士資格審査試験合格率(88.9%)でも、全国平均を大きく上回る成果を上げることができました。四半世紀の実践を通してこのように伝統と文化を築きつつある心理学研究科のマネジメントを預かることになり、改めて身の引き締まる思いであります。

よく指摘されるように、自ら変化することなしには伝統も文化も維持できません。従前通りを反省し、新しく創造し続けることが必要だといわれます。心理学研究科のこれまでの良さと強みを守りながら、さらに変化し新しいものにチャレンジすることを研究科全体で考えたいと思います。

心理・教育相談センター長

沢宮 容子



心理・教育相談センターへのご支援、お願い申し上げます

2024年4月より、東京成徳大学大学院心理・教育相談センター長に就任いたしました沢宮容子と申します。

田村節子先生の後任としてこの重責を担うことになり、身が引き締まる思いです。

当センターは2000年4月に設立され、心の悩みを抱える方々への支援を提供するとともに、本学大学院心理学研究科の院生が教育・研究の実践を行う場としても機能しております。大学教員と修士課程院生を中心に構成、運営されており、2024年度は所員14名、相談員(大学院心理学研究科修士課程院生など)25名、非常勤所員1名の合計40名が、センタースタッフとして登録されています。

地域社会に開かれたセンターとして、皆さまのお役に立つことを目指しております。今後とも、皆さまのご支援とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

東京成徳大学 国際学部

JICA地球ひろばでSDGsを体験学習

5月11日(土)に国際学科の1年生は「グローバルスタディーズ入門」の学外研修として市ヶ谷のJICA地球ひろばを訪問し、学習プログラムに参加しました。本プログラムは同ひろばの体験ゾーンでの学習およびJICA海外協力隊の隊員による体験談により構成され、各1時間合計2時間行われました。体験ゾーンではSDGsに関するさまざまな展示を通じ、地球規模のさまざまな課題について学習しました。また、ボランティア体験談では、協力隊の活動や現地の人々の生活について具体的なお話を聞かせていただきました。学生たちは世界の80%を占める開発途上国のさまざまな課題に理解を深めることができました。

国際学部長 芳賀 克彦



東京成徳大学 子ども学部



新型コロナウイルスの感染拡大で人数を制限して参加した2022年

子どもに関わるエキスパートとして

子ども学部では、2015年からサントリーホール・美術館主催の未就学児向け「いろいろドレドレ」にボランティアとして参加しています。子どもたちが活動を楽しむことができる環境を整え、困ったことがあればお手伝いするのが私たちの役割です。大学での学びを生かし、子どもたちが自分で活動に取り組むことができるよう、状況に応じて子どもたちに関わります。コロナ禍で人数制限された際も、どんな時でも催しに関わる他のプロと一緒に子どもに関わるエキスパートとしての自覚を持ち臨んできました。8回目の今夏も奮闘してくれることを期待しています。

子ども学部教授 味府 美香

東京成徳大学 経営学部

小田原ビジネス実習

経営学部では、5月17日(金)から18日(土)にかけて、3年生の「キャリアデザインIII」(必修科目)にて、小田原でのビジネス実習を実施しました。この研修は、学生が事前に小田原市の政策や訪問企業等について学修し、現地にて企業等への取材活動を行うという内容です。当日夜はグループに分かれてワークショップ、翌日は市の施設でグループごとに発表、6グループが健闘賞のトロフィーを獲得しました。学生からは、「ビジネススキルを習得できた」、「取材することでネットにはない情報が得られた」、「楽しかったのでまた行きたい」などの声が寄せられました。

副学長・経営学部長 村山 純



東京成徳大学 応用心理学部
臨床心理学科

5年ぶりに学科の卒業祝賀会を開催

コロナの影響で長らく控えていましたが、臨床心理学科の卒業パーティを、3月19日の卒業式(北とびあホール)の後に本学6号館グローバルラウンジにて開催しました。5年ぶりの祝賀会でした。この学年は2020年入学当初から入学式もできず、対面授業がほとんど行えず、遠隔授業を中心に受講せざるを得なかった点で、コロナ感染症拡大の影響が最も甚大だったこともあり、無事卒業に至った諸君の感慨もひとしおでした。卒業生の今後の活躍を祈り歓談しました。3月末に退職された田村節子教授、湯立助教からの挨拶、4年担任の先生方からのスピーチがあり、花束贈呈をしました。

応用心理学部長・臨床心理学科長 一谷 幸男



東京成徳大学 応用心理学部 **健康・スポーツ心理学科**

[illegible]

健康・スポーツ心理学科のカリキュラム構造図

学科カリキュラムのマイナーチェンジ

今年度から学科カリキュラムを一部改正しました。2020年のキャンパス移転を契機に策定された前カリキュラムは、「郊外型」から「都市型」に対応したものでした。すなわち、必ずしも身体活動場所に恵まれているとはいえない都市部の方々の心身の健康づくりを支援するために必要な知識・スキルも修得できるようにリニューアルしたのです。この4年間で振り返りますと、所期の目標はおおむね達成されたと自己評価していますが、策定時には想像できなかった課題も見いだされたこともあり、この度、新規科目として「アーバン・フィジカル・アクティビティ」を開設するなどいくつかの改善を図りました。

健康・スポーツ心理学科長 出雲 輝彦

東京成徳大学大学院 心理学研究科

躍進する大学院教育

心理学研究科は、実践的知識と研究能力を身に付けた心理支援の専門家を育てることを目指しています。おかげさまで2024年国家資格の「公認心理師」につきましては、公認心理師試験で合格率100%（区分A）を達成しました（全国平均は90.1%）。この区分Aというのは学部と大学院の両方で所定の単位を収めたうえで受験した場合をいいます。一方の主要資格である臨床心理士についても本学は臨床心理士受験資格第1種指定校ですが、2023年の臨床心理士資格審査試験で88.9%の合格率となりました（全国平均66.5%）。いずれも全国平均を大きく上回る成果でした。

心理学研究科長 茂呂 雄二



東京成徳短期大学

1・2年生合同スポーツ大会を開催

2024年5月25日(土)に幼児教育科1・2年生合同のスポーツ大会を実施しました。学生自治組織である桐友会の委員が創意工夫して作り上げた今年のスポーツ大会では、8の字縄跳び、パラバルーン玉入れ、ドッジボールの3競技を実施しました。各クラスオリジナルデザインのTシャツを着用し、クラス対抗で行われた競技はどれも白熱したものとなりました。とりわけ、今年初めて取り入れたパラバルーン玉入れは、ボールを入れる側と飛ばす側とに分かれ、残ったボールの数で勝敗を競うもので、大いに盛り上がりました。保育者を目指す学生らしく、ボールは新聞紙と折り紙で手作りしたものです。普段の授業と異なる学友や先生たちとの交流も貴重な経験となりました。

幼児教育科准教授 永井 優美



東京成徳大学中学・高等学校 中高一貫部

令和6年度 中学入学式



今年の桜は遅咲きで、その蕾は不安と緊張に包まれた本校入学生^{つぼみ}のようだったことを思い出します。

4月5日(金)に中学入学式が挙行されました。夢と希望という花びらを胸に秘めた148名の生徒が東京成徳大学中学校の正門をくぐりました。この先の「ひろがる未来」に向けての大きな一歩です。緊張の中体育館に響き渡る呼名。凛とした雰囲気の中入学式が執り行われました。集合写真には華やかな笑顔と、まだ残る緊張感を収めることができました。

明日からの体験は何もかもが初めての体験です。胸の桜をいつまでも咲き誇らせて学校生活を送ってもらいたいと思います。

第1学年主任 塚田 洋丈

東京成徳大学高等学校 高等部

東京成徳大学高等学校入学式

2024年4月5日に入学式が執り行われ、東京成徳に381名の新しい仲間が加わりました。新入生たちは皆、緊張した様子で式に臨んでいましたが、入学者の呼名では一人ひとりがしっかりと返事をして、入学した実感をかみしめていました。式の最後には在校生代表として生徒会長が歓迎の言葉を述べ、それに応えるように新入生の代表生徒が学校行事や部活動などの楽しみにしていることを挙げ、「実行の勇気」をもって、さまざまなことに取り組んでいきたいと述べていました。高校3年間の第一歩を踏み出した新入生には向き・不向きよりも前向きに、何事にも挑戦してほしいと思います。

第1学年主任 卯木 啓祿



東京成徳大学深谷中学・高等学校

中高一貫コース

宿泊農村生活体験

5月8日(水)から10日(金)の2泊3日で、新潟県上越市・十日町市において「宿泊農村生活体験」を実施しました。1日目の田植え体験は、雨天で気温が低い状況でしたが、生徒たちは最後までがんばりました。2日目は、3・4名で1軒の農家にお世話になる民泊を行い、山菜採り、椎茸の植菌作業、畑の手入れ、薪割りなどを体験させていただきました。3日目は、森の学校「キョロロ」で山の植物や池の生物を採取・観察し、「十日町市博物館」において十日町市の歴史を学びました。この3日間は、日頃の生活で経験できない内容が多く、とても充実した時間を過ごすことができました。

中学校教頭 横山 和彦



東京成徳大学深谷高等学校

SEITOKU探究(総合的な探究の時間)



今年度から、高校2年生全クラスを対象に、深谷市と城西大学の協力のもと、地域の課題解決を目指す「SEITOKU探究」(総合的な探究の時間)を始めました。4名程度に分かれたグループごとに、設定した6つの課題の中から選択したテーマについて探究します。5月8日に深谷市企画財政部の方から深谷市の現況についてご講演いただき、翌9日には城西大学経営学部長・石倉教授をはじめ4名の先生方にテーマごとの分科会を行っていただきました。生徒たちは深谷市の魅力や課題、また高齢者が抱える健康問題や外国の方と共生することの難しさ、特産野菜を活用したレシピを作る際のポイントなど、この2日間で多くのことを学びました。6月からは本格的にグループ活動が始まります。12月の発表に向け、生徒たちが楽しく、そして仲間と協働しながら活動できるよう、バックアップしていきたいと考えています。

教務主任 高柳 賢三

成徳幼稚園

アフリカ音楽のムクナバンドがやってきた

5月15日、幼稚園のホールでアフリカリズムのワークショップを体験しました。ガーナ出身のミュージシャンと一緒に、アフリカの大地を思わせるリズムが響き渡る中、アフリカの太鼓や木琴の音に合わせてダンスや自作の楽器を鳴らして楽しみました。最初、黒人ミュージシャンにびっくりした子どもたちも、すぐに気さくな人柄の2人に慣れてノリノリでした。フィナーレには、ムクナバンドと一緒に楽器を鳴らしながら、園舎内を行進しました。音楽・リズムを楽しむだけでなく、ガーナ国旗の色塗りや世界地図でアフリカの場所を確認し、食べ物や気候のお話も聞き、さまざまな文化があることを学ぶことができました。

教頭 梶山 久美子



学園創立 100周年記念事業

東京成徳 NETWORK >>>

卒業生オンラインコミュニティ

東京成徳学園では、2026年の学園創立100周年記念事業の一環として、大学・短大・高校の卒業生同士や、卒業生と教職員・在学生をつなぎ、それぞれが交流できる卒業生オンラインコミュニティ『東京成徳NETWORK (TS-network)』を開設しました。

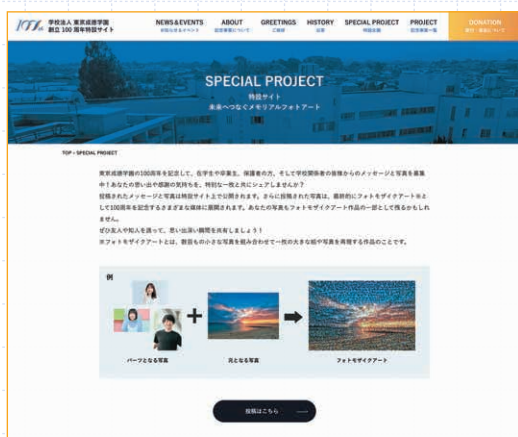
東京成徳NETWORKに登録いただくと、東京成徳からのお知らせが届くだけでなく、自身に関連するコミュニティごとに交流もできるようになります。情報はアカウントに登録した東京成徳の卒業生・在学生・教職員だけが閲覧できるクロードな環境として運用し、安心して参加、利用ができます。学園創立100周年までのビジョン「東京成徳ビジョン100」では、学園が目指す将来像「『成徳』の精神を持つグローバル人材の育成」を実現するために3つの戦略を掲げていますが、その内の1つにネットワーク戦略を掲げ、同窓生を含む「オール東京成徳」のネットワーク強化を目標にしています。「オール東京成徳」としての連携と絆をさらに深め、東京成徳学園のプレゼンス強化と教育内容の充実に取り組むためにも、多くのご卒業生からの東京成徳NETWORKへのご参加をお待ちしています。



<<< メッセージと写真を募集中！ 未来へつなぐメモリアルフォトアート

学園の100周年を記念して、在学生や卒業生、保護者の方、そして学校関係者の皆さまからのメッセージと写真を募集しています。

あなたの思い出や感謝の気持ちを、特別な1枚とともにシェアしませんか？ 投稿されたメッセージと写真は特設サイト上で公開されます。さらに投稿された写真は、最終的にフォトモザイクアートとして100周年を記念するさまざまな媒体に展開します。あなたの写真もフォトモザイクアート作品の一部として残るかもしれません。ぜひ友人や知人を誘って、思い出深い瞬間を共有しましょう！



特別企画のご紹介は、7/26公開予定です。

詳細はこちら



東京成徳学園の先生は、日々専門の研究に取り組んでいます。
先生方に研究テーマと研究への思いを、お話しいただきました。

大学・短期大学HPにも各教員の紹介を掲載しています。
下記の各QRからぜひご覧ください。



研究とその成果をビジネスの現場に実装すること、そして、一連の経験を教育に還元することを目指していますが、まだまだ道半ばなので、高い志を持って取り組んでいきたいと思っています。

紹介はこちら



クリエイティビティ・マネジメントと「ゲーミフィケーション」

板生 研一 先生 ITAO kenichi

東京成徳大学 経営学部 特任教授

エンターテインメントビジネスやスタートアップにおける実務経験と、経営学および行動科学の研究をベースに、企業（組織）やビジネスパーソン（個人）が仕事におけるクリエイティビティを高めるために必要なマネジメント方法やマインドセットを研究しています。また、その実現手段として、自発的な行動変容を可能にする「ゲーミフィケーション」（ゲームの仕組みを非ゲーム分野に応用すること）に着目し、エンターテインメントビジネスを社会課題の解決にどう役立てることができるかを研究するとともに、実務での実践も行っています。



研究成果を書籍として出版（2023年）、日経新聞朝刊に広告掲載（2024年1月24日）



宣伝会議主催『Sales Strategy Conference 拡張する営業戦略の策定と実行を科学する』にて講演



東京成徳大学経営学部『経営論集第11号』（2022年3月発行）にて論文を発表

コミュニケーションにおける自己主張と他者配慮

江口 めぐみ 先生 EGUCHI megumi

東京成徳大学
応用心理学部臨床心理学科 准教授

人とのコミュニケーションについて「自分の気持ちや考えを率直に、適切な方法で伝えること（自己主張）」と「相手の気持ちや考えなどに配慮すること（他者配慮）」の観点から研究を行っています。両者のバランスや内容が発達に伴ってどのように変化するのか、またコミュニケーションのスタイルが精神的な健康や人間関係にどう影響を与えているのかを調査し、教育実践やカウンセリングの場に生かしています。主な対象は児童期ですが、子どもから成人まで幅広く研究を行っています。



共著やこれまでの研究論文

研究活動は、「これが分かった面白そうだ」「きっと役に立つのでは」という好奇心と希望の種を育てるようなものです。思うようにいかないこともあります、試行錯誤が実を結んだ時にうれしさを感じます。



紹介はこちら



博士論文を風間書房から出版（2019年）



自分の「心」の表情を、書で表現したもの。大学院講義『心理療法特論』にて院生と作成



全ては子どものために。
人が人を育てることの意義と奥深さに
向き合っていきたい

品川区役所 子ども未来部
保育施設運営課 保育・教育担当(研修)
担当付主査 課長補佐

佐々木 万希代さん
SASAKI MAKIYO

東京成徳短期大学 幼児教育科
1985年3月卒業

東京成徳短期大学を卒業後、東京都北区役所へ入区。保育士として9年間勤務し、結婚・出産などを経て東京都品川区へ。区立保育園の副園長を4年間、園長を10年間務めた後、区役所保育課で保育・教育のガイドラインやカリキュラムの策定に携わる。現在は同区の子ども未来部内に新事業を立ち上げ、保育・教育担当として区立保育園の運営や人材育成・研修の責任者を担当。

命を育み、支える仕事をしたい。 その思いで幼児教育の道へ

高校時代は「医師になって人の命を救いたい」と考えていました。ただ、今から約40年前の当時は、まだまだ女性医師の活躍の場は狭き門だったうえ、女性は結婚して専業主婦になるのが一般的という時代。「それなら、逆に女性として活躍できる仕事をしよう」と保育士に方向転換。命を救う仕事から、生まれた命を大切に支えていく仕事を指すことにしたのです。

進学した東京成徳短期大学では、リトミックや保育原理、小児保健など幼児教育を広く、深く学びました。2年生最後の試験が終わった時の「これで現場に出られる!」というワクワクした気持ちを鮮明に覚えていますし、卒業後にはゼミの先生からお声がけいただき、幼児と保育に関する専門書の執筆を経験させていただいたことも、いい思い出となっています。

園長、区役所の保育課とキャリアを重ね、 子どもを取り巻く環境や教育の充実を図る

卒業後は北区の保育士として採用され、その後品川区に異動し、計38年間にわたり、保育現場に従事してきました。子どもたちと直接触れ合うごとに彼らの気持ちの中身が見えてくるようになり、毎日が発見の連続でした。もっと利用しやすい園にしたいと奮闘しているうちに、気付いたら副園長、園長とキャリアを積み重ねていきました。

その過程で「子どもを取り巻く環境をさらによくしたい」「現場で奮闘する保育士のサポートをしたい」という思いが高まり、保育行政に関わるために区役所の保育課に異動、保育内容全般の方向性や方針の作成に関わるように。保育・教育のガイドラインの策定と、幼稚園や保育園から小学校に進む際のなめらかな接続のためのカリキュラム策定に携わり、幼保連携のモデルとなる形の支援ができたことで、保育・幼児教育の充実を図ることにつな

東京成徳学園で学ぶ皆さんへメッセージ

子どもに関わる仕事は楽しく、とても奥が深いものです。かわいい姿や成長を間近で感じながら、人が人を育てることの意義や信頼関係の大切さなどを日々実感します。私たちの職業なくしては、社会は成り立たないほど重要だと言い切れます。保育・幼児教育に関わりたと思っている皆さんは、その志を大切にしてほしいです。自分にできるかな？などと悩んだりしなくても大丈夫。思いやりがあり、他人のために尽力しようとする気持ちを抱えていることが何より素晴らしい。自分自身を誇りに思いながら前を向いて進んでください。東京成徳学園で学んでいる“子ども主体の保育”を実現できる環境や制度を整えていくために、私も現在の立場でがんばっていきたいと思っています。

私の好きな言葉であり、大切にしていること。それは「信頼」です。「信頼」は、人間関係における基礎です。子どもとの関係はもちろんのこと、保護者との関係、保育者同士の関係、地域社会との関係などあらゆる関係の土台でもありますし、保育の仕事以外でも常に意識しています。



のですが、「研修が充実しているから品川区の保育士を志望した」という声もあり、これから保育士になろうと志望してくれている学生に対して安心材料を提供できているのだとうれしくなりましたね。東京成徳の後輩の皆さんにも、ぜひ品川区の保育士を目指してほしいです。おすすめします。もちろん、主軸になるのは子どもたちです。全ては、一人ひとりの子どもにとって最善の対応をすること。ここを、常に忘れてはいけないと考えています。



品川区で統括指導主事の経験もある齋藤等特任教授と、現在品川区役所に勤務する佐々木さん。ともに“子ども主体”の理念を掲げ、それぞれ教育、保育の充実に向け貢献されてきました。

今号9ページの「スペシャル

ストが語り合う“幼児教育と保育の未来”では、お二人の公開対談の様子を掲載しています。こちらもぜひご覧ください。



園長時代に子どもからもらった手紙と、保育士になったばかりの頃に同僚からプレゼントされたストラップ。「現場での思い出は、今でも大切にしています。」



がったのではないかと手応えを感じています。

先生方の声を大切にしたい。

保育現場に足を運び、相談・研修を実施

直近では、所属部署での保育園運営や人材育成に関する事業立ち上げに関わり、園長経験が役立てばとその担当をしています。子どもを取り巻く環境が多様になっている現在、彼らの背景にある家庭や地域社会を知ること大切ですし、教育に関わる者として日々研鑽を積んでいく必要があります。とはいえ、全てを現場任せにせず、組織としてサポートしながら、よりよい保育、よりよい教育につなげていきたい——。そう考え、品川区内の全公立保育園に足を運び、園長や現場の保育士から相談を受けたり、課題をヒアリングするといったことを行いながら、円滑な園運営をサポートしています。区内保育施設における保育の質の維持・向上を推進するための研修事業も実施している

大学・短期大学の就職・進路

大学・短期大学卒業生の進路状況と就職活動支援

2023年度の大学および短期大学卒業生の進路決定率は、大学全体で91.1%、短期大学で94.2%と、前年度を上回る結果となりました。また、進路先も多岐にわたり、新型コロナウイルスの収束に伴って企業の採用意欲が高まっていることから、学生にとって有利な就職環境が整いつつあります。しかし、企業を知名度やイメージだけで選ぶと視野が狭くなり、希望する内定を得ることが難しくなる可能性があります。自身に適した職場を見つけるためには、自分の価値観や希望を明確にし、他人の基準に左右されずに自分の軸を確立することが重要です。これまでの経験を振り返り、将来の目標を明確にする中で、自分自身の軸を形成していくことが求められます。本学では、学生が自らの価値観に基づいて進路を決定できるよう、教員と職員が一体となってサポートを行っています。個別相談やさまざまな進路支援セミナー・ガイダンスなどを通じて、学生一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな支援を提供しています。これからも、学生が自信を持って未来に向かって進むことができるよう、全力で就職活動を支援してまいります。

就職支援センター長 稲垣 久美子

主な進路先 (民間企業等は五十音順)

大学

就職

【民間企業等】

(株)赤ちゃん本舗、アディダスジャパン(株)、アパホテル(株)、(医)IMSグループ、(株)AIRDO、ANA成田エアポートサービス(株)、(株)かんぽ生命保険、(株)キタムラ、キヤノンITソリューションズ(株)、ゴディバジャパン(株)、(株)コドモン、佐川急便(株)、サムスン電子ジャパン(株)、(株)サンスタースタイル、サントリービバレッジソリューション(株)、(株)JALグランドサービス、城北信用金庫、新教育総合研究会(株)、(株)ストライプインターナショナル、西武信用金庫、(株)セルリアンタワー東急ホテル、(株)総合体育研究所、(株)大創産業、タキゲン製造(株)、(株)DTS、東京シティ信用金庫、東京東信用金庫、(株)西松屋チェーン、NOVAホールディングス(株)、(株)パイ インターナショナル、(株)北陸銀行、みずほ不動産販売(株)、三井不動産リアルティ(株)、水戸証券(株)、(株)LITALICO、ルイ・ヴィトンジャパン(株)、渡辺パイプ(株) 他

【公務員】(教職・保育職以外)

東京消防庁、千葉県警察、特別区、柏市、川口市、富士宮市

【教職・保育職】

小学校、幼稚園、保育所、認定こども園、施設等

進学等

東京成徳大学大学院、田園調布学園大学大学院、中部学院大学、富山大学大学院、東京柔道整復専門学校、インパクト・イングリッシュ・カレッジ、Lexis English Brisbane

短期大学

就職

【教職・保育職】

幼稚園、保育所、認定こども園、施設等

【民間企業等】

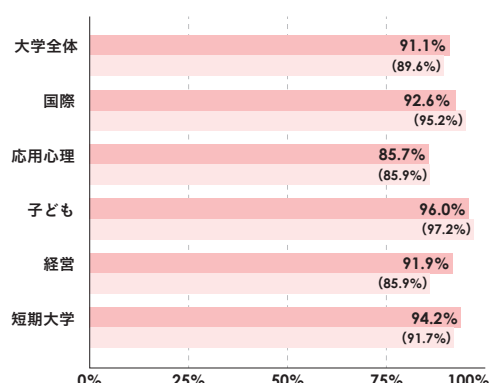
(株)アウトソーシングテクノロジー、(株)イナホスポーツ、(株)セブン-イレブン・ジャパン

進学等

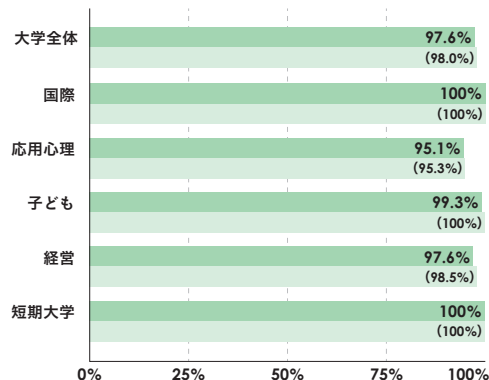
東京成徳大学子ども学部、資生堂美容技術専門学校、東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

2023(令和5)年度卒業生進路状況 ()は前年度

進路決定率 (就職決定者+進学決定者 / 卒業者)



就職決定率 (就職決定者 / 就職希望者)



詳細は本学ホームページをご覧ください

高等学校の進学

東京成徳大学高等学校

●高等部

高等部の2023年度の卒業生390名のうち、進学者は352名でした。その内訳は、大学323名、短大5名、専門学校24名です。

高等部では、“行ける大学ではなく行きたい大学”への進学を目指しています。年内入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)の需要と供給が高まり、志望校より先に受験方法を決める生徒が多く見られるようになりました。入試は目標を達成するための手段であることを強調し、目標である志望校への合格を達成できるようメンタル面でのケアにも努めています。また、目標設定の際は大学卒業後の就職にも目を向けさせ、将来何をするために大学へ進学するのかを考えさせています。特に年内入試では将来のビジョンも問われるので、大学入試を機に自分を見つめ直し、学力以外も大きく成長してほしいと考えています。

高等部 進路指導部長 平川 元喜

●中高一貫部

今年度の卒業生96名中93名が四大に進学しました。進学率97%で、昨年度が84%、これまでの最高が90%であったことから見ても、大変素晴らしい結果となったと思います。他に動物系の専門職短大1名、鍼灸師の資格を取得するための専門学校に1名が本人の強い志望で進学しています。東京芸術大学の1次試験を突破した1名のみが、もう1年がんばることとなります(芸大1次合格だけでも十分素晴らしい)。

一般入試では国公立大学合格11名をはじめとして、昨年度に匹敵する高成績となりました。年内入試も年々増えており、8割を超えるまでになっています。個々に進路担当を当て出願準備を補助しています。さらに海外進学を担当するネイティブ教員、小論文担当や芸術系の実技担当などと担任が連携し、生徒個々にしっかりと寄り添いながら進路サポートを行っています。このように、先生方と生徒の距離の近さが進路実現に大きく影響していると感じています。

中高一貫部 進路指導部長 吉川 直樹

東京成徳大学高等学校 2023(令和5)年度 主な合格実績

国公立大学(準大学含む) 29名

筑波 埼玉 宇都宮 福島 静岡 弘前 高知
琉球 東京都立 前橋工科 神奈川県立保健福祉
都留文科 山梨県立 長野県看護 愛知県立
兵庫県立 防衛大学校

難関私立大学 150名

早稲田 慶応義塾 上智 東京理科 学習院
明治 青山学院 立教 中央 法政 立命館

海外進学 7名

西オーストラリア(AU) ディーキン(AU)
トロントメトロポリタン(CA)
国立センメルワイズ(HU) サセックス(UK)
パサデナ・シティ・カレッジ(US) など

※ AU: オーストラリア CA: カナダ HU: ハンガリー
UK: イギリス US: アメリカ

併設の大学・短大 20名

東京成徳大学

(高等部・中高一貫部の合計・浪人含む 延べ人数)



高等部

高等部・中高一貫部
それぞれの合格実績は
各HPの進路ページを
ご覧ください



中高一貫部

東京成徳大学深谷高等学校 2023(令和5)年度 主な合格実績

国公立大学 2名

高崎経済

私立大学 242名

東京理科 明治 青山学院 立教 中央 立命館 成蹊
日本女子 東洋 日本 駒澤 専修 獨協 芝浦工業 など

海外進学 1名

シドニー(オーストラリア)

併設の大学・短大 5名

東京成徳大学

(浪人含む 延べ人数)

東京成徳大学深谷高等学校

2023年度の深谷校卒業生253名の進路状況は、大学149名、短大10名、専門学校78名、就職8名、浪人5名、その他3名でした。前年度減少していた専門学校への進学率が増加し、短大進学率が大きく減少した結果になりました。

新課程入試変更を控えた学年であったことから、年内入試を希望する生徒の学校選びには、かなり安全志向が目立ちました。総合型選抜で早期に合格を決めたいと考える生徒も多く、早い段階から準備することとなりました。夏休み中の小論文指導や面接指導といった対策は今後も増えていくと感じています。生徒一人ひとりの進路実現のためには、一般選抜にこだわらない適切な入試形態を指導することも重要になってきており、今まで以上に生徒、保護者との連携を深めながら進路指導を行っていききたいと思います。

進路指導部主任 木村 哲久

CLUB ACTIVITIES REPORT

クラブ活動報告 2023年10月～2024年3月

全国 全国大会進出 関東 関東大会進出

● 東京成徳大学

男子バスケットボール部 BASKETBALL

第99回 関東大学バスケットボールリーグ戦
2部リーグ-10位 / 2部・3部入替戦-3部降格(1勝2敗)

女子バスケットボール部 BASKETBALL

第73回 関東大学女子バスケットボールリーグ戦
4部リーグAブロック-5位(4勝4敗) / 4部残留

ダンス部 DANCE

第43回 全国創作舞踊研究発表会(岐阜大会) 出場



大学男子バスケットボール部



大学ダンス部

卓球部 TABLE TENNIS

令和5年度 東京都高等学校新人卓球大会 女子団体-6位

バトントワリング部 BATON TWIRLING

第58回 バトントワリング関東大会
コンテストの部 学校部門 高等学校の部 バトン編成 金賞 全国

第51回 バトントワリング全国大会
学校部門 高等学校の部 バトン編成 銀賞

演劇部 THEATRICS

第65回 東京私立中学高等学校演劇発表会
(TOKYOドラマフェスタvol.25) 優秀賞

● 東京成徳大学深谷高等学校 (都ベスト16以上)

弓道部 KYUDO

第13回 全国私立高等学校弓道大会
男子の部 団体トーナメント戦-ベスト8

サッカー部 SOCCER

高円宮杯JFA U-18サッカーリーグ2023埼玉 ベスト4
令和5年度 埼玉県高校サッカー新人大会 ベスト16

卓球部 TABLE TENNIS

令和5年度 埼玉県ジュニア卓球大会 男子学校対抗-5位 関東
第27回 関東高等学校新人卓球大会 男子学校対抗-5位
令和5年度 埼玉県高等学校新人卓球大会 男子学校対抗-ベスト8
女子学校対抗-ベスト16

女子バドミントン部 BADMINTON

第41回 埼玉県私立高等学校バドミントン大会
女子学校対抗-ベスト4
女子ダブルスAブロック-ベスト4(高1・高2)

パワーリフティング部 POWER LIFTING

第86回 埼玉県パワーリフティング選手権大会(高校の部)
男子:53kg級-5位(高1) / 66kg級-5位(高2)、7位(高1)
74kg級-3位(高2)、7位(高1)
女子:47kg級-優勝(高1) / 57kg級-優勝(高2) / 63kg級-優勝(高2)

陸上競技部 TRACK AND FIELD

第27回 関東高等学校選抜新人陸上競技大会 女子やり投 16位(高2)

● 東京成徳大学高等学校 (都ベスト16以上)

男子サッカー部 SOCCER

第102回 全国高等学校サッカー選手権大会 東京都2次予選 ベスト16

女子バスケットボール部 BASKETBALL

令和5年度 全国高等学校バスケットボール選手権大会 東京都予選
優勝 全国

SoftBank ウインターカップ2023
第76回 全国高等学校バスケットボール選手権大会 出場

ラクロス部(中高女子ラクロス) LACROSSE

第21回 中高女子ラクロス秋季関東大会(Autumn Cup 2023) 優勝 全国
令和5年度 中高女子ラクロス関東新人戦(Winter Open 2023) 優勝

女子ソフトボール部 SOFTBALL

令和5年度 東京都高等学校ソフトボール新人大会 ベスト16

● 東京成徳大学中学校 (都ベスト16以上)

男子サッカー部 SOCCER

第61回 東京都中学校サッカー新人大会 ベスト16

ラクロス部(中高女子ラクロス) LACROSSE

(東京成徳大学高等学校のラクロス部参照)

東京成徳大学深谷高等学校 パワーリフティング部



東京成徳では大学・高校・中学の学生たちが運動部・文化部・同好会などのさまざまなクラブに所属し、日々活動に取り組んでいます。

仲間たちと切磋琢磨する学生たちに、所属するクラブのこと、これからの目標などリアルな声を聞いてみました。



『パワーリフティング』とは、スクワット、ベンチプレス、デッドリフトの3種目の合計で競う競技です。現在は国体種目、パラリンピック種目になっています。深谷高校のパワーリフティング部は、全員が全国大会入賞を目指して日々活動しています。世界大会で活躍した先輩方もいるので、毎日の練習を一生懸命に取り組み、良い成績を残せるようにがんばります。



3月25日(月)深谷市役所にて、『令和5年度深谷市スポーツ栄誉賞・教育委員会体育賞 授賞式』が開催され、深谷高校パワーリフティング部からは栄誉賞に5名、体育賞に4名が選出され、授賞式に参加しました。今年の夏にはマルタ共和国で開催される世界大会に出場する選手もいますので、これからさらに精進してまいります！

Member's Voice

「勝てる」という強い気持ちで、
目指すは全国大会での
全員入賞！



東京成徳大学
深谷高等学校
パワーリフティング部
3年 部長
黒澤 春香さん

パワーリフティングは単なる力だけの勝負ではなく、体のどこをどう使うのか、しっかり頭を使って考えて挑まないと結果が出ない競技です。劣勢な状況でも、仲間たちや観客席からの声援に推されて、いつもは挙げられない重さを挙げられることがあるところに魅力を感じています。大会での応援がいつも本当に励みになっています。7月の全国大会では、部員全員が入賞することを目指しています。応援よろしくお願いします！

2023年にルーマニアで開催された世界大会で顧問の福田先生と。福田先生も本校の卒業生で部活のOBです。中学からずっとお世話になっている先生です。



- 部員数：15名(高3:3名、高2:6名、高1:4名、中学:2名 / 男子12名・女子3名)
- 活動日：月・火・木・金・土(平日16:00～18:00 土曜13:00～15:00)

※2024年6月現在

2023(令和5)年度 学校法人東京成徳学園 決算概況

法令に基づき、大学等の設置者である学校法人は、当該事業年度における決算関係書類および事業報告書を作成し、これを広く公開することが求められています。本学においては、理事会・評議員会での承認を経て、財務状況ならびに事業報告に関する情報公開を、順次、ホームページに掲載することとしております。

本誌では、誌面の都合上、財務状況の概要を掲出します。

● 東京成徳学園全体の卒業・入学・在籍数

2023年度 卒業生数	2024年度 入学者数	在籍学生・生徒・園児の 総数
1,480人 (累計133,239人)	1,545人 (前年比△26人)	4,932人 (前年比△48人)

資金収支計算書

(2023年4月1日から2024年3月31日まで) (単位:百万円)

科目	金額
学生生徒等納付金収入	3,912
手数料収入	95
寄付金収入	58
補助金収入	1,698
資産売却収入	1
付随事業・収益事業収入	6
受取利息・配当金収入	1
雑収入	270
借入金等収入	0
前受金収入	695
その他の収入	329
資金収入調整勘定	△1,000
前年度繰越支払資金	8,152
収入の部 合計	14,217
人件費支出	3,701
教育研究経費支出	1,163
管理経費支出	352
借入金等利息支出	16
借入金等返済支出	243
施設関係支出	281
設備関係支出	109
資産運用支出	100
その他の支出	305
資金支出調整勘定	△278
翌年度繰越支払資金	8,225
支出の部 合計	14,217

事業活動収支計算書

(2023年4月1日から2024年3月31日まで) (単位:百万円)

科目	金額
学生生徒等納付金	3,912
手数料	95
寄付金	8
経常費等補助金	1,691
付随事業収入	6
雑収入	270
教育活動収入計	5,982
人件費	3,706
教育研究経費	2,032
管理経費	426
徴収不能額等	6
教育活動支出計	6,169
教育活動収支差額	△187
収入	教育活動外収入計 1
支出	教育活動外支出計 16
教育活動外収支差額	△15
経常収支差額	△202
収入	特別収入計 79
支出	特別支出計 0
特別収支差額	79
基本金組入前当年度収支差額	△123

(注) 百万円未満を四捨五入しているため、合計等に差異が生じる場合があります。

貸借対照表

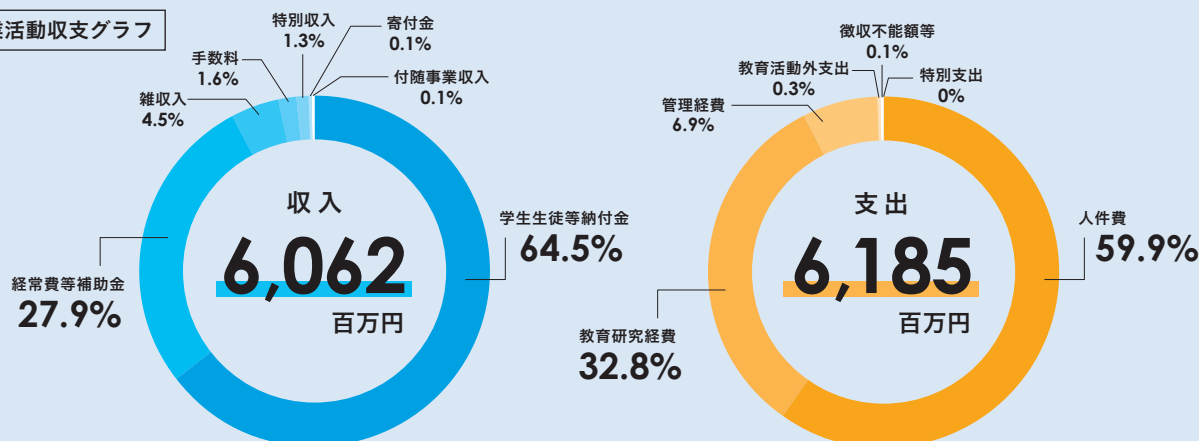
(2024年3月31日まで) (単位:百万円)

科目	金額
固定資産	40,378
有形固定資産	37,958
特定資産	2,330
その他の固定資産	90
流動資産	8,574
資産の部 合計	48,952
固定負債	3,107
流動負債	1,420
負債の部 合計	4,527
基本金	56,702
繰越収支差額	△12,277
純資産の部 合計	44,425
負債および純資産の部 合計	48,952

実施した主要事業

- 東京成徳ビジョン100・中期事業計画の推進、ブランド・ステートメントの展開
- 学園100周年事業 100周年特設サイト開設、周年ロゴ制作・公表
- 幼稚園HPの全面リニューアル
- 大学30周年、深谷中学10周年、深谷高校60周年、幼稚園70周年の各校・園の取り組み
- 東京校(高等部)人工芝グラウンドの全面張替え、深谷中高総合体育館の冷暖房空調工事および外壁等の改修工事
- 大学・短大学生へのマイクロソフト有償ライセンスの無償提供
- 各種留学制度の円滑な実施
- ICT機器を利用した授業の実践
- 長期休園中の預かり保育の実施

事業活動収支グラフ



2023(令和5)年度決算の事業活動収支については学生数の減少や人件費、教育研究経費の増加等の影響により、基本金組入前当年度収支差額は123百万円の赤字、資金収支については73百万円の資金増加となりました。

詳しくは、東京成徳学園HP
事業計画・事業報告の
「令和5年度事業報告書」で
確認できます。



2024(令和6)年度 事業計画(抜粋)

ビジョン100 重点目標		2024(令和6)年度主要事業の内容
大学	社会ニーズに対応した学部・学科編成	- 国際学部新カリキュラムの円滑な推進およびカリキュラムの一部改定の検討 - 各留学先に対するバランスの取れた学生の配置 100分授業とクォーター制を検討 - プログラミング特別講座の周知と充実 - TSUパソコンスキル認定試験制度をさらに広く実施
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	- 新「教学・学生情報システム」による学修成果の可視化を踏まえ、FDを通じて全学的なPDCAサイクルの整備 - 全学生にOffice365 A3プラン(学生はWord、Excel、PowerPointなどを無償で利用可)を提供し、PC利用を推進 - アクティブラーニング(能動的学修)とICTスキルを有効活用する授業の積極的な拡大と促進 - 初年次教育をさらに充実させ、基礎学力と学習意欲の維持を図る
	大学の発展につながるグローバル化	- グローバル教育センターの短期留学プログラムおよび夏季海外短期研修参加者の継続的な獲得 - グローバル教育センターを中心に、英語・韓国語の教育を全学的に拡充・展開
短期大学	社会ニーズに対応した学科編成	- 学外での見学・研修を積極的に行い、学内でも演習等の授業に主体的に学ぶプログラムを効果的に導入 - 生き生きと学生生活を送っている学生の様子をHPやインスタ等で発信し、本学の魅力をアピール
	教育の質向上 就業力や社会人基礎力の育成での社会的評価の獲得	- 教育の質に係る客観的指標を照合し、規程の補完・教育内容の整備徹底・不足している組織の新設等 - 実習園との懇談会を継続的に実施し関係強化、実習園との連絡をデータ化し学内で情報共有 - 学園100周年・短大60周年に向け、周年事業準備プログラムを作り、卒業生との連絡を密にする取り組みに着手 - 保育の課題に対応するための方策や現場で役立つ知識・技能を伝授する内容も含め企画
	短期大学の発展につながるグローバル化	- 語学研修や短期留学等に多くの学生が参加できるように紹介・支援 - 保育現場で役立つ「幼児の英会話」科目をスタートできるよう準備・支援 - 楽しく実効性のある機器操作技能を学び、職場等で活用できる知識・技能の取得を目指す
高等学校・中学校	創造性と チャレンジ精神を涵養し 主体的に学び、考え、 行動する人材を育成	「自分を深める学習」の内容充実、主体的に学びに取り組めるよう指導を実施 - 探究型授業をより研究実施 - ミュージカル、歌舞伎鑑賞など引き続き実施 - 生徒相互のコミュニケーション・連帯を深化
	グローバル人材の 育成の強化を図るとともに 社会的評価の獲得を目指して	- 中高一貫部新留学プログラムの実施状況を検証・改善、高等部留学プログラムの検討・推進 - 留学プログラムを通じて提携校検討、留学生の受け入れを実施 - 体育館空調設備の実施、本館空調設備のリニューアル
	大学入試の変化等に伴う 教育内容の変化への対応	- 高等部学力上位層への学力指導強化 - 推薦・総合選抜入試への対応
深谷高等学校・中学校	机上の学習をリアルな 主体的実体験へ 生徒の能力や学習意欲を 引き出す授業を展開	- 校外先進校視察研修、校内互見授業、生徒による授業アンケート等によるさらなる授業改善の継続 - 学力の3要素に基づく授業の量的・質的向上、ICT教育の環境整備とeラーニングの着実な推進 - 全教員によるアクティブラーニング型授業の実践と公開授業・研修の推進 - 外国人教員を活用したクリル(CLIL[※])の実践
	外国語教育の充実・ 外国文化の理解などで グローバル人材育成での 社会的評価の獲得	- 英語検定対策講座と個人指導の充実、2次試験対策個人指導を計画的に開催して指導を徹底 - 英語によるスピーチコンテスト・プレゼンコンテスト・ディスカッション等の実施、内容の充実 - インターネットを活用し、JICA(国際協力機構)と連携した学習活動の推進 - 校内外の研修や先進校視察等による指導力アップ、外国人教員の協力による疑似留学体験の実施
	大学入試の変化等に伴う 教育内容の変化への 迅速な対応	- 大学入試改革への完全対応、英語4技能向上・資格取得に向けた指導の充実 - 新学習指導要領による新教育課程への確実な移行、「総合的な探究の時間」の効果的な実践 「進学センター」にて、課外の講座を開講、個別指導教室の開設
幼稚園	幼児教育環境の変化に 対応する幼児教育の プログラムの再構築	- 特別プログラムのシラバスに基づく実施、主体的活動を実現するための工夫 - これまでの本幼稚園の取り組んできた教育の継続 - 実施している活動の成果の検証
学園	グローバル人材育成のため、 学園全体の教育環境を 重点的に整備する	- 教育目標との関連付けを行い、ブランド・ステートメントに沿った教育を実践 - 語学学修環境の充実、ICT教育・プログラミング教育の充実 - 英語コミュニケーション環境の整備を継続
ネットワーク	創立100周年記念イベントを 実施することで 「オール東京成徳」としての 学園ネットワークを強化	100周年事業の一環として「オール東京成徳」ネットワークの創設着手 - 各階層での同窓会の強化検討 - ICT・グローバル教育、地域貢献等に関連した各分野での連携強化

※CLIL(Content and Language Integrated Learning)：他教科科目(理科や社会科など)やテーマの内容の学習と外国語(主に英語)の学習を組み合わせた学習。

学園人事 2023年(令和5年)11月～2024年(令和6年)4月

※()は前任

採用	地引 優香	東京成徳大学	国際学部国際学科助教	島田 雄大	東京成徳大学深谷中学・高等学校	専任講師
	中村 聡美	東京成徳大学	応用心理学部臨床心理学科特任教授	齋藤 孝史	東京成徳大学深谷中学・高等学校	専任講師
	金 多允	東京成徳大学	応用心理学部健康・スポーツ心理学科助教	荒木 美早	成徳幼稚園	教諭
	高瀬 雄二	東京成徳大学	子ども学部子ども学科特任教授	古谷 朱里	成徳幼稚園	教諭
	橋本 理子	東京成徳短期大学	幼児教育科准教授	鈴木 三津雄	東京成徳大学・東京成徳短期大学	キャリア支援課課長
	小坂田 摩由	東京成徳短期大学	幼児教育科助教	上野 冴	東京成徳大学・東京成徳短期大学	総務課
	中川 琢雄	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	植原 健人	東京成徳大学中学・高等学校	事務部
	高橋 清志	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	谷内 優希	東京成徳大学中学・高等学校	事務部
	井守 雄一	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	上原 久美子	東京成徳大学中学・高等学校	事務部
	江口 万喜	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	樋口 眞生	東京成徳大学中学・高等学校	事務部
退職	CREMER Stephanie L	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師	染谷 和紀	東京成徳大学中学・高等学校	事務部
	松本 憲一	東京成徳大学深谷中学・高等学校	教頭補佐・教諭	岩崎 充利	東京成徳大学深谷中学・高等学校	事務長
	長谷部 孝司	東京成徳大学	応用心理学部臨床心理学科特任教授 企画・IR室長	高野 利幸	東京成徳大学深谷中学・高等学校	事務部事務長補佐
	田村 節子	東京成徳大学	応用心理学部臨床心理学科教授 心理・教育相談センター長	由田 のぼら	東京成徳大学中学・高等学校	教諭
	湯 立	東京成徳大学	応用心理学部臨床心理学科助教	BAIN MARK LAURENCE	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	石崎 一記	東京成徳大学	応用心理学部健康・スポーツ心理学科教授	及川 智洋	東京成徳大学中学・高等学校	専任講師
	寺本 潔	東京成徳大学	子ども学部子ども学科特任教授	寺田 充男	東京成徳大学深谷中学・高等学校	教諭
	増田 有希	東京成徳大学	子ども学部子ども学科准教授	新井 啓一郎	東京成徳大学深谷中学・高等学校	教諭
	三枝 康雄	東京成徳大学	経営学部経営学科准教授	寺田 稔	東京成徳大学・東京成徳短期大学	キャリア支援課長
	吉田 博行	東京成徳短期大学	幼児教育科教授	坂尾 麻衣	東京成徳大学・東京成徳短期大学	教務課主任
就任	田尻 由起	東京成徳短期大学	幼児教育科助教	田熊 清泉	東京成徳大学・東京成徳短期大学	総務課主任
	渡辺 伸一	東京成徳大学中学・高等学校	教諭	成田 紗希	東京成徳大学中学・高等学校	事務部
	茂呂 雄二	東京成徳大学	大学院心理学研究科長・教授	足立 久実	東京成徳大学中学・高等学校	事務部
	沢宮 容子	東京成徳大学	心理・教育相談センター長	吉村 善也	東京成徳大学深谷中学・高等学校	事務長補佐
	石隈 利紀	東京成徳大学	応用心理学部臨床心理学科特任教授 (大学院心理学研究科長・教授)	村山 純	東京成徳大学・東京成徳短期大学	企画・IR室長[兼務]
	佐々木 丈予	東京成徳大学	応用心理学部健康・スポーツ心理学科准教授 (助教)	石川 雅俊	東京成徳大学・東京成徳短期大学	入試・広報センター副センター長
	小西 瑞穂	東京成徳大学	応用心理学部健康・スポーツ心理学科准教授 (特任准教授)	元木 章太	東京成徳大学・東京成徳短期大学	経営企画室係長兼企画・IR室係長 (総務課係長)
	内田 善浩	東京成徳大学・東京成徳短期大学	経営企画室長兼企画・IR室課長 (キャンパスライフ支援課長)	大嶋 弘恵	東京成徳大学・東京成徳短期大学	経営企画室兼企画・IR室 (企画・IR室)
	本多 麻子	東京成徳大学	応用心理学部健康・スポーツ心理学科教授 (准教授)	龍野 祐介	東京成徳大学・東京成徳短期大学	経営企画室係長[兼務]
	味府 美香	東京成徳大学	子ども学部子ども学科教授 (准教授)			
昇任	西山 喜三男	東京成徳大学中学・高等学校	教頭	岩崎 亜矢子	東京成徳大学・東京成徳短期大学	入試広報課係長 (入試広報課主任)
	橋本 俊明	東京成徳大学中学・高等学校	教諭 (専任講師)	青木 雄太	東京成徳大学・東京成徳短期大学	キャリア支援課主任 (キャリア支援課員)
	寺田 知弘	東京成徳大学中学・高等学校	教諭 (専任講師)	大嶋 夏子	東京成徳大学・東京成徳短期大学	学修支援課主任 (学修支援課員)
	黒澤 弘美	成徳幼稚園	教頭補佐 (主任)	中川 薫	東京成徳大学・東京成徳短期大学	キャンパスライフ支援課主任 (キャンパスライフ支援課員)
	浦井 美紅	成徳幼稚園	主任	春日 信平	東京成徳大学・東京成徳短期大学	キャンパスライフ支援課主任 (キャンパスライフ支援課員)
	高瀬 由美子	法人本部法人事務局	総務課係長 (総務課主任)	大和 大	東京成徳大学中学・高等学校	事務部次長兼総務課課長 (総務課課長)
	鈴木 三津雄	東京成徳大学・東京成徳短期大学	キャリア支援課長 (キャリア支援課課長)	宮本 英俊	東京成徳大学中学・高等学校	事務部係長 (事務部主任)
	石代 哲久	東京成徳大学・東京成徳短期大学	キャンパスライフ支援課長 (入試広報課係長)	黒崎 里美	東京成徳大学中学・高等学校	事務部主任
	宮澤 俊憲	東京成徳大学・東京成徳短期大学	入試・広報センター副センター長	高島 聖記	東京成徳大学深谷中学・高等学校	技術主任
	石田 和也	東京成徳大学高等学校	副校長			
解職				内田 善浩	東京成徳大学・東京成徳短期大学	キャンパスライフ支援課長
				下山 暢	東京成徳大学深谷中学・高等学校	技術主任

役員・評議員の改選

2024(令和6)年3月に開催された学園理事会・評議員会において、
評議員の退任に伴う選任が行われ、下表のとおり決定しました。

役 職	氏 名	現 職
理事長・評議員	木 内 秀 樹	短期大学長、中学・高等学校長、幼稚園長
理事・評議員	吉田 富二雄	大学長
理事・評議員	石 川 薫	深谷中学・高等学校長
理事・評議員	木 内 雄 太	法人本部副本部長、中学校・高等学校教諭、幼稚園副園長
理事・評議員	関 博 光	法人事務局長
理事・評議員	前 田 雅 英	東京都立大学法科大学院名誉教授・講師※
理事・評議員	青 柳 晴 久	赤城印刷株式会社代表取締役※
理事・評議員	柳 澤 裕	三菱UFJ証券ホールディングス株式会社取締役※
監 事	黒 崎 康 夫	株式会社黒崎インターナショナル代表取締役
監 事	石 山 賢	前 法人事務局長
評 議 員	村 山 純	大学副学長、経営学部長
評 議 員	一 谷 幸 男	大学応用心理学部長・臨床心理学科長
評 議 員	小 林 雅 央	大学事務局長、短期大学事務局長
評 議 員	染 谷 一 子	中学・高等学校同窓会長
評 議 員	遠 藤 洋 子	短期大学同窓会長
評 議 員	藪 崎 精 克	学園後援会長、株式会社藪崎工務店代表取締役
評 議 員	○茂 呂 雄 二	大学院心理学研究科長
評 議 員	津 島 泰 雄	津島歯科医院長
評 議 員	塙 和 明	大学子ども学部長
評 議 員	松 本 純 子	短期大学幼児教育科長
評 議 員	木内万里夫	住友精密工業株式会社、グロービス経営大学院大学教授

(注) 選任区分順、○: 新任者、※: 学外理事



左から石隈前評議員、木内理事長。

〔就任〕評議員 茂呂 雄二

2021年より応用心理学部臨床心理学教授として着任。2024年より現職。同年より学園評議員。

〔退任〕評議員 石隈 利紀

2016年より応用心理学部臨床心理学教授として着任。2017年に大学院心理学研究科長就任。2019年より学園評議員。

表紙について

短大卒業生の現役園長と大学生2名、
高校生1名が集まり、座談会を行いました。
卒業からこれまで保育士を続ける
卒業生からは、子どもたちへの愛情の
深さを感じました。一方、今では園長を
務めることもあり、子どもや保護者への
支援、細やかな配慮に取り組むお話も
多く、普段のご活躍が目に見えました。そんな先輩の姿を見て、後輩である学生生徒が
将来の自分に重ね、自分の未来に期待を寄せる機会となったうれしく思います。



私たちは約束します。

ブランド・ステートメント

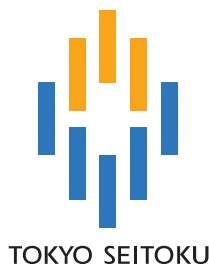
多様性の中で共生し、
新たな自分を発見するとともに、
自らの信念をもって
未来をデザインする人材を育成します。



TOKYO SEITOKU

グローバル化が加速する現代社会では、人種や国籍、宗教、性別、価値観などの多様性を受け入れ、必要な助け合いをしながら生きていく共生を、学問や経験を通して学ぶことが大切です。

この学びや経験を通じて、これまでの殻を打ち破る新しい自分の使命や役割を探り当て、確固たる自分自身の信念のもと、自分の未来、自分たちの社会の未来を描き、切り拓いていく人材を、東京成徳では育成します。



TOKYO SEITOKU

学校法人 東京成徳学園

www.tokyoseitoku.ac.jp



学校法人東京成徳学園は
2026年に創立100周年を迎えます

- 東京成徳大学
- 東京成徳大学大学院
- 東京成徳短期大学

東京キャンパス(十条) 東京都北区十条台 1-7-13

TEL 03-3908-4530 URL www.tsu.ac.jp

- 東京成徳大学中学・高等学校

中高一貫部 東京都北区豊島 8-26-9

TEL 03-3911-2786 URL www.tokyoseitoku.jp/js/

高等部 東京都北区王子 6-7-14

TEL 03-3911-5196 URL www.tokyoseitoku.jp/hs/

- 東京成徳大学深谷中学・高等学校

埼玉県深谷市宿根 559

TEL (中学) 048-573-1784 URL (中学) www.tsfj.jp/top

(高校) 048-571-1303 (高校) www.tsfh.jp

- 成徳幼稚園

東京都北区豊島 8-24-2

TEL 03-3911-6337 URL www.tokyoseitoku.ac.jp/t-kind/

- 東京成徳スイミングスクール

東京都北区王子 6-7-14

TEL 03-3914-2383 URL www.tokyoseitoku.ac.jp/swimming/

東京成徳学園後援会のご案内

東京成徳学園の使命達成のため、オール東京成徳で尽力しようと幼稚園から大学院まで学園全体の後援組織として、ご賛同いただく会員を募り組織した後援会です。趣旨をご理解いただき、ぜひご参加ください。

東京成徳学園後援会 目的および事業

(東京成徳学園後援会会則より)

本会は会員相互の親睦を図り、併せて学園の発展に寄与することを目的とし、次の事業を立案実施する。

1. 学園行事への参加協力。
2. 在学生の研究活動、部活動の助成。
3. 卒業生進路への協力。
4. 会員の親睦会、研修会の開催。

入会に関するお問い合わせ

TEL 03-3911-5196

担当 大橋、遠藤 (事務)

読者アンケートのお願い

「TOKYO SEITOKU NOW」をご覧いただき、誠にありがとうございます。今後の発行に向け、より良い紙面作りをするために、皆さまの感想をぜひお聞かせください。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

※ お寄せいただいた個人情報は、今後の広報誌作成の参考に利用するものであり、それ以外の目的で使用するものではありません。



QRからご回答いただけます。



@tokyoseitokuPR



@tokyoseitokuPR



@tokyoseitokupr